

通信プラットフォームの更なる発展

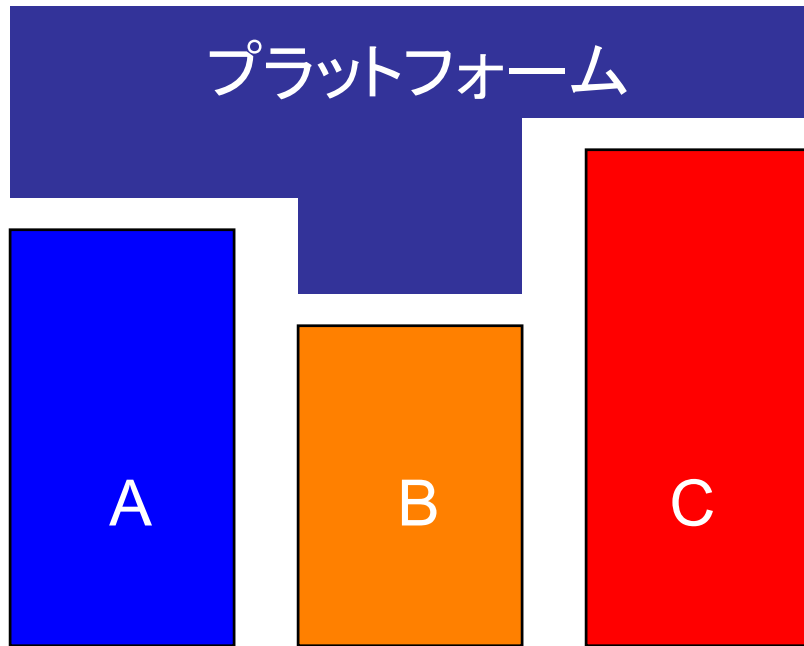
- グローバル競争に備えて -

平成20年4月11日

MVNO協議会
幹事会議長 福田 尚久

「プラットフォーム」

例: 自動車のアクセルとブレーキ
Windows
iモード



利用者が差異を意識しなくて良い
⇒ 利便性の向上

⇒

差異を埋める

- 何の差異を？
- どのように埋めるか？

企業戦略=競争力の源泉

3つの視点

① ICTプラットフォームはグローバル競争時代

- 「日本市場向け」プラットフォームは生き残れない

② 公正な競争環境

- 独占的地位を利用した閉鎖的プラットフォームは不公正バンドルの懸念

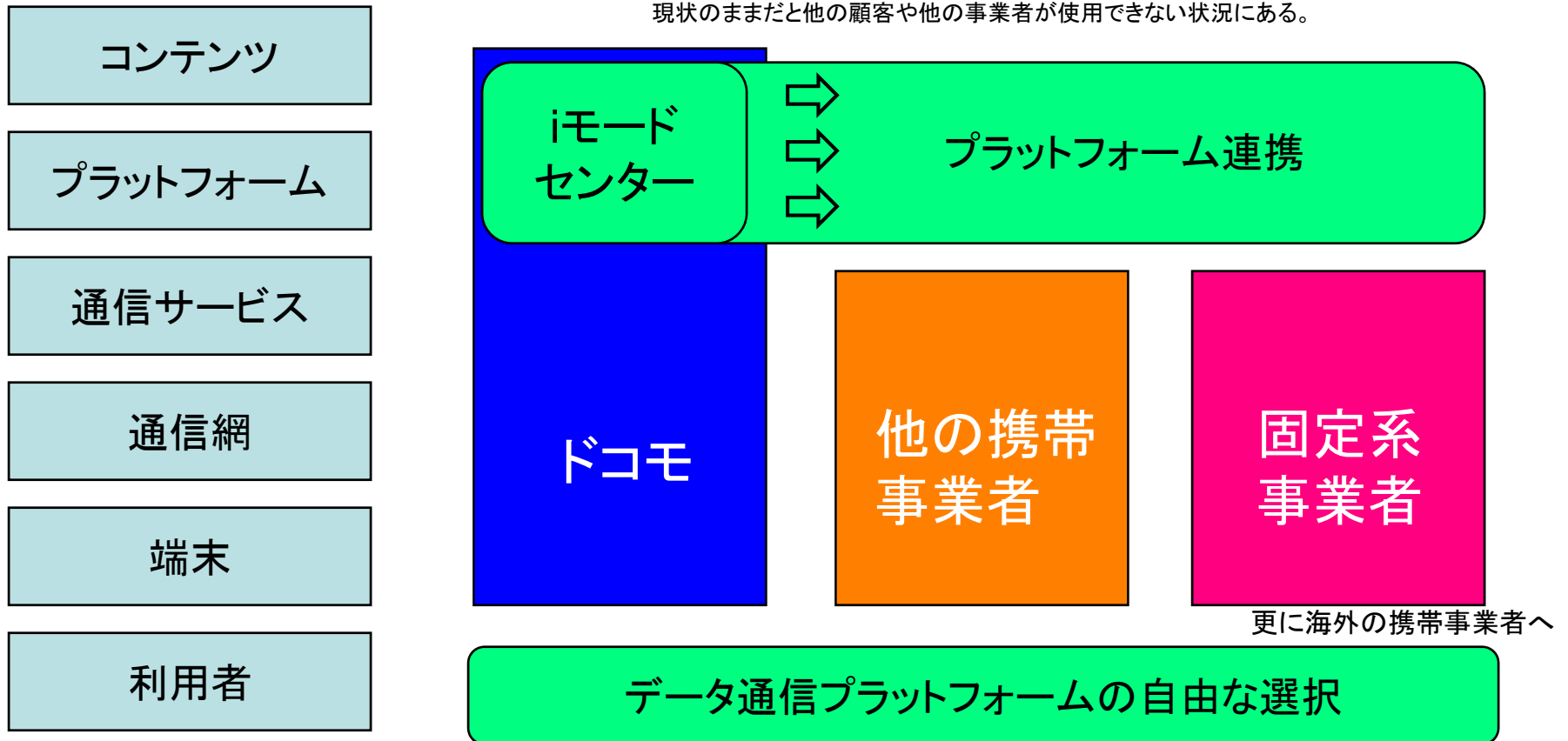
③ Fit in と Stand out の判断：プラットフォーム戦略の要諦

- どの部分を国際（業界）標準準拠ないし他社仕様準拠とするか（fit in）
どの部分を自社独自仕様とするのか（stand out）

日本市場向けに、独占的地位を利用した、stand outプラットフォームになっていないか？

iモード・センターの他事業者との連携

iモードセンターは、独占的地位を利用して構築したプラットフォームであり、現状のままだと他の顧客や他の事業者が使用できない状況にある。



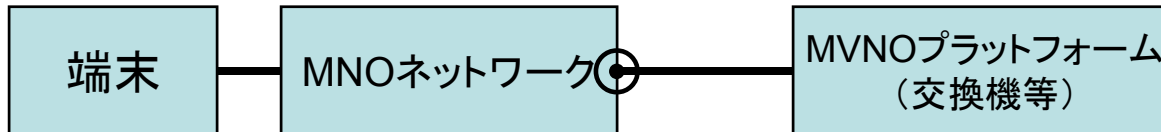
携帯プラットフォーム連携の主な方式

① 端末の搭載機能インターフェイス(API)



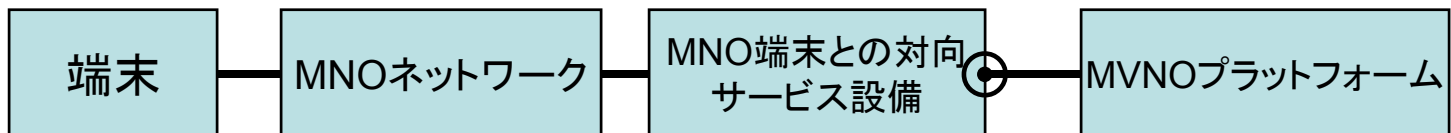
端末内に搭載されている機能の開発用インターフェイス(API)を、標準採用ないしオープン化する形で連携

② 事業者間接続インターフェイス



端末との通信インターフェイスを、他社まで延長する形で連携

③ 端末とサービス間とのインターフェイス



端末と対向するサービス設備から出ているインターフェイスで他社と連携

① 端末の搭載機能インターフェイス(API)

- (A) 赤外線通信
- (B) Bluetooth通信
- (C) GPS(位置情報)
- (D) 基地局からの位置情報
- (E) メールソフトウェア
- (F) 電話帳・アドレス帳機能
vCard (IETF RFC2426)採用
- (G) カレンダー機能
CalDAV (IETF RFC4791)採用
- (H) 端末内データ管理機能(盗難時対策等)
- (I) セキュアICメモリ領域(モバイルFelica等)

② 事業者間接続インターフェイス

- (A) 端末認証
- (B) 契約者固有ID
- (C) データPush配信
- (D) 輻輳制御
- (E) 端末管理機能
- (F) 課金設定(課金先指定)
- (G) レイヤ-2接続

③ 端末とサービス間とのインターフェイス

- (A) MNOトラステッド・アプリケーション(例:iアプリDX)
- (B) メールプロトコル: POP, SMTP, IMAP他
- (C) ブラウザ: HTML
- (D) 情報配信機能: RSS, Atom (IETF RFC4287)
- (E) デジタルコンテンツ著作権管理・配信システム
- (F) 電話帳・アドレス帳機能
vCard over the air
- (G) カレンダー機能
CalDAV over the air